

介護サービスにおけるテクノロジーに対する信頼と利用意向

三輪 洋靖
サービス価値拡張研究チーム

研究背景

■ 介護サービスにおける課題

- 高齢化率の増加(2021年に29.1%)と労働者人口の減少により、介護人材の不足が社会問題となっている
- 持続的なサービス提供のため、ロボットやIT等、介護支援テクノロジーの活用、生産性の向上が期待されている
- 様々な介護支援テクノロジーの開発が進んでいるが、普及率は低く、テクノロジーが活用されていない

■ 研究目的

- 介護支援テクノロジーに対する信頼やアクセプタンスが高まっていないため、高齢者、介護サービス提供者において利用意向が伸びていない
- 中高年者に対する意識調査を行い、信頼と利用意向の関係を明らかにすることを目的とする

意識調査

■ 調査方法

- 国内の中高年者4000名を対象としたインターネット調査

■ 質問項目

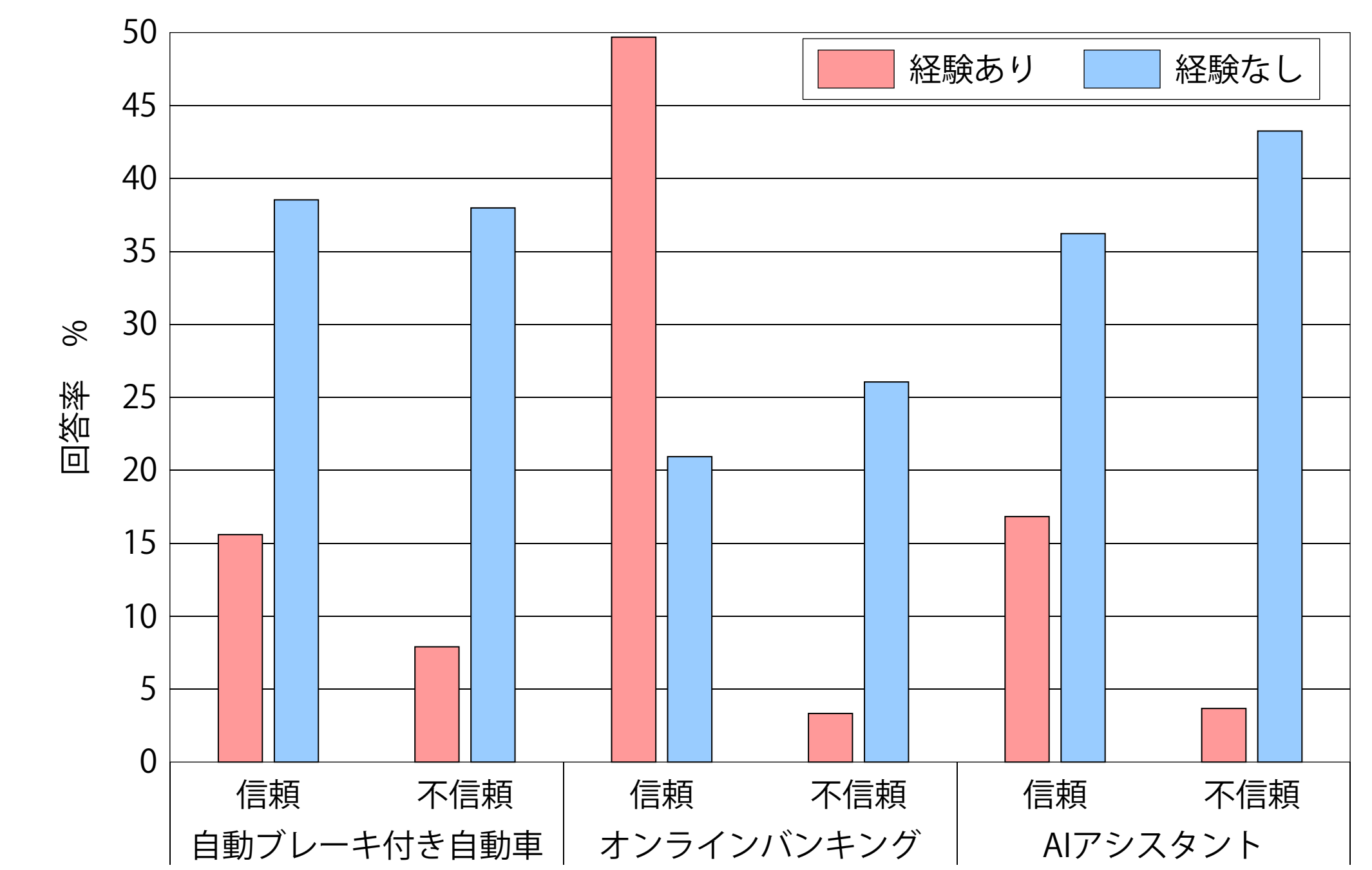
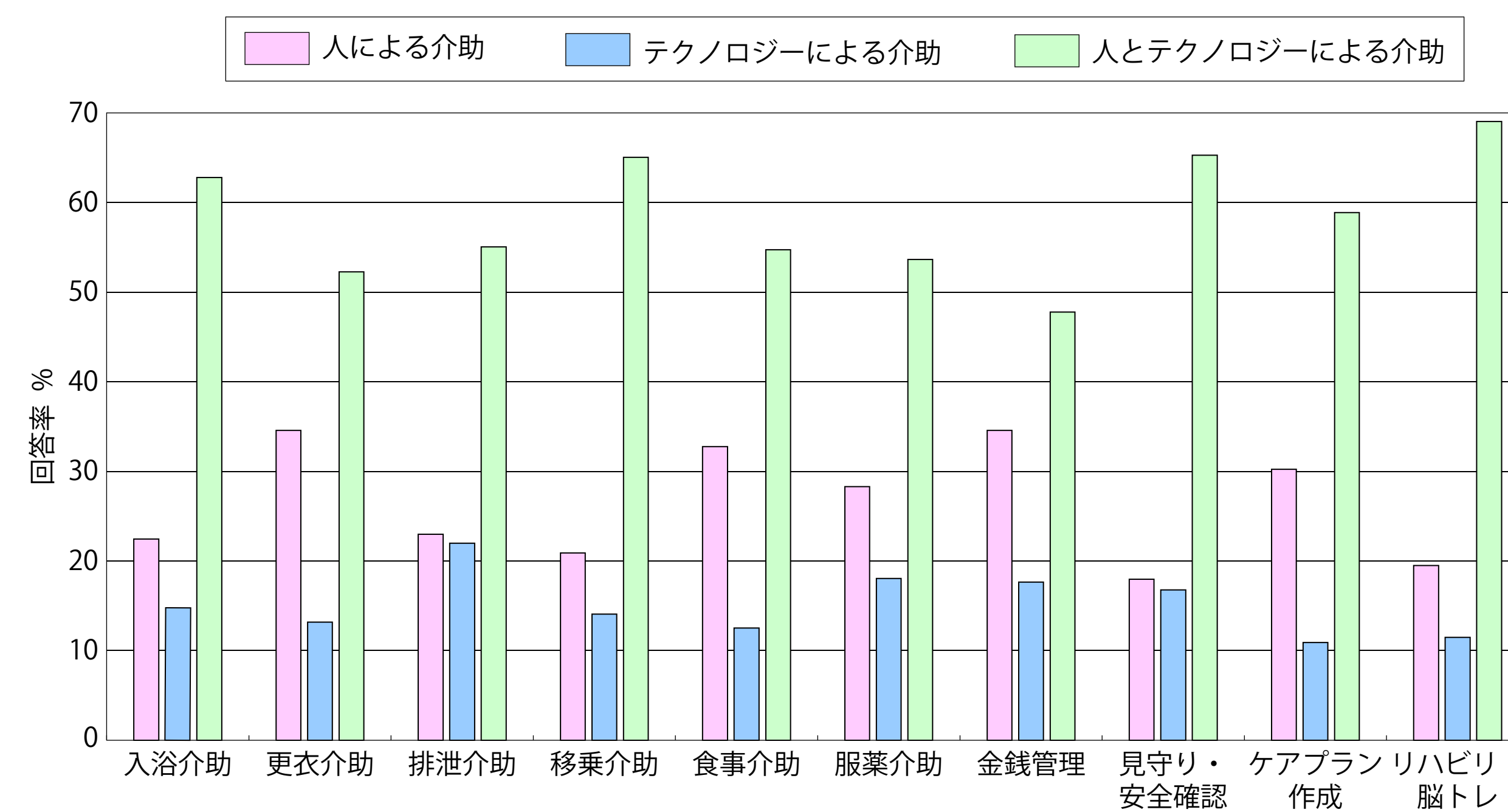
- 10種類の介助に対するテクノロジーの利用意向
- 類似の既存テクノロジーに対する信頼
- 個人属性



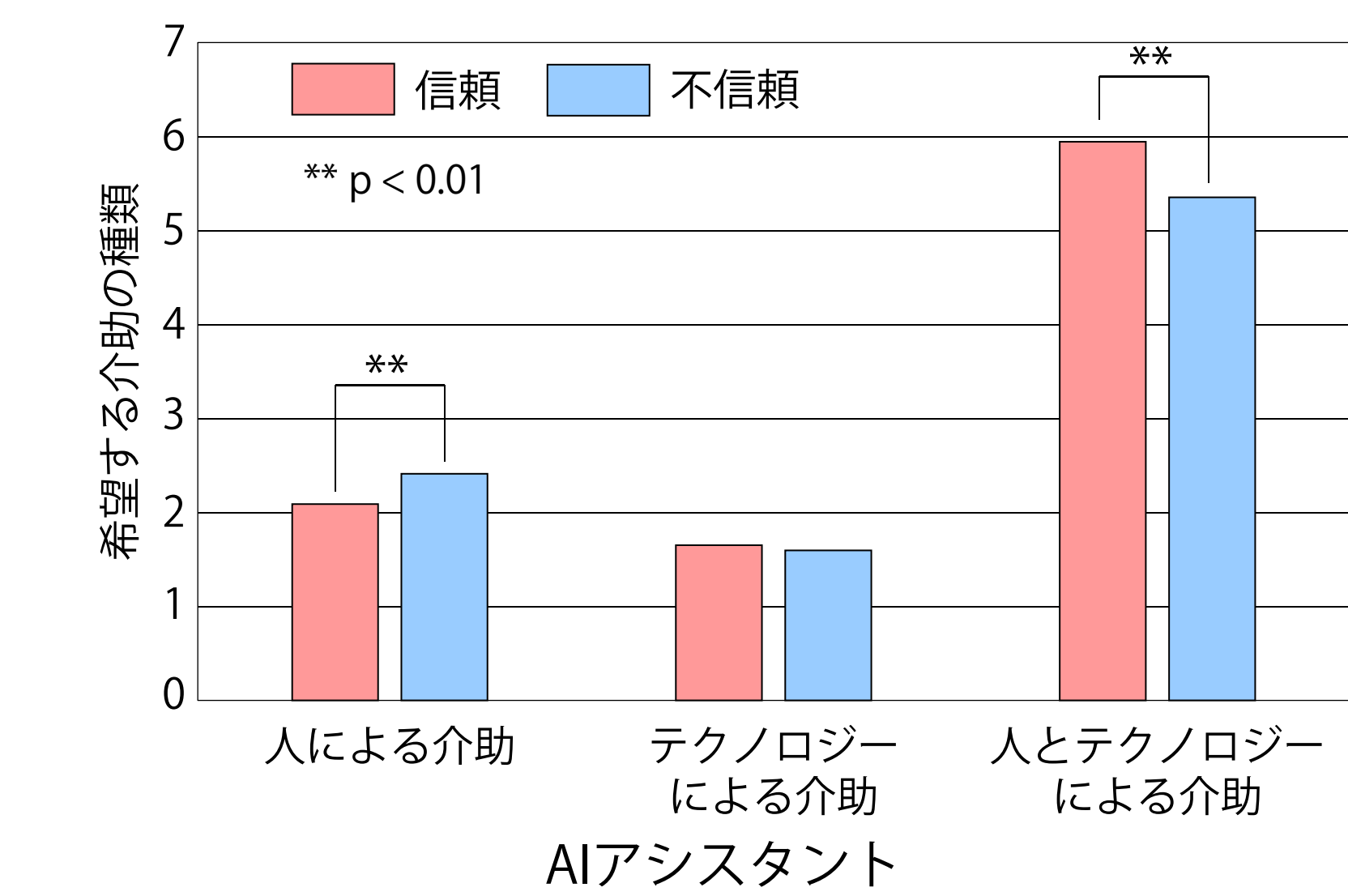
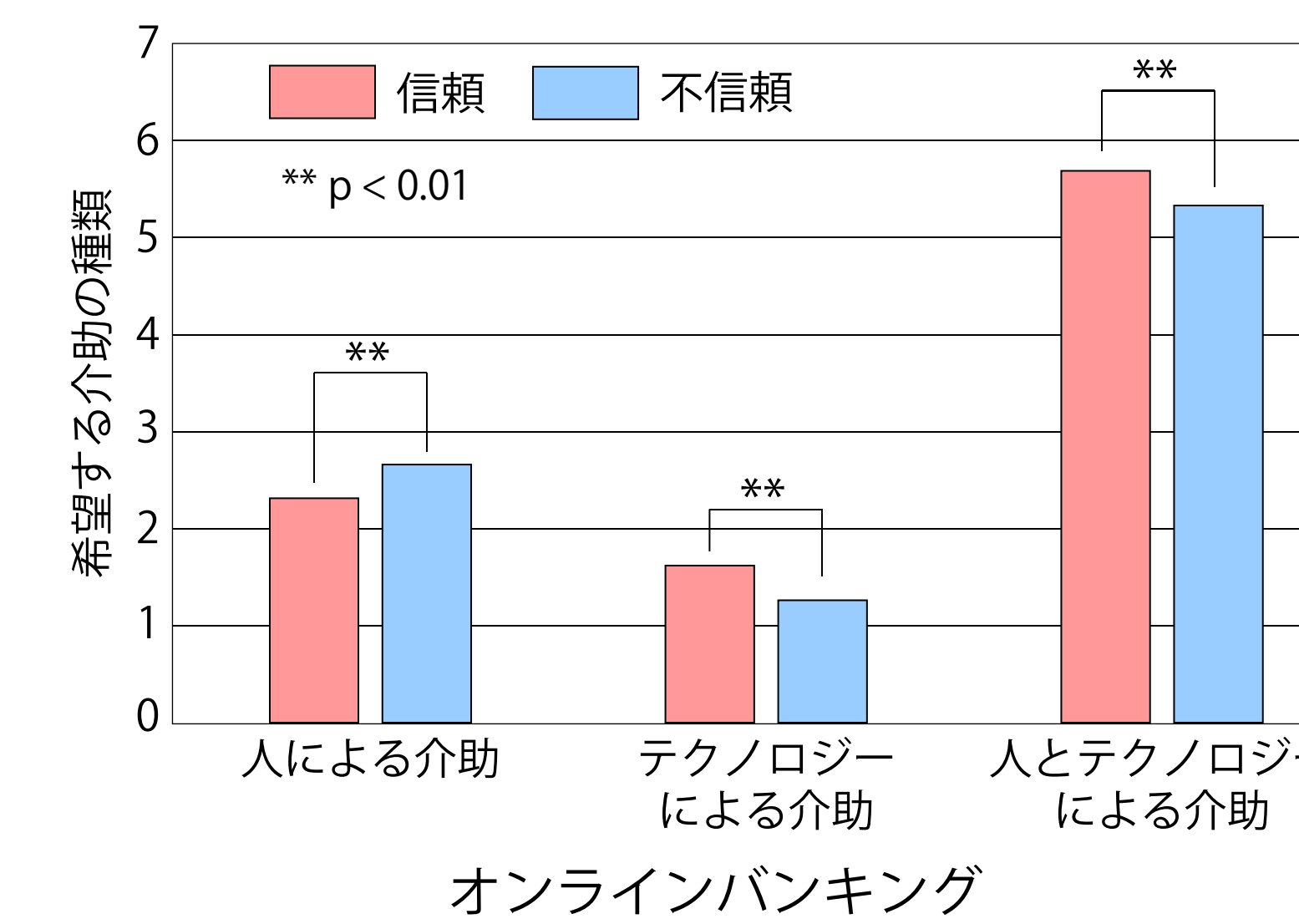
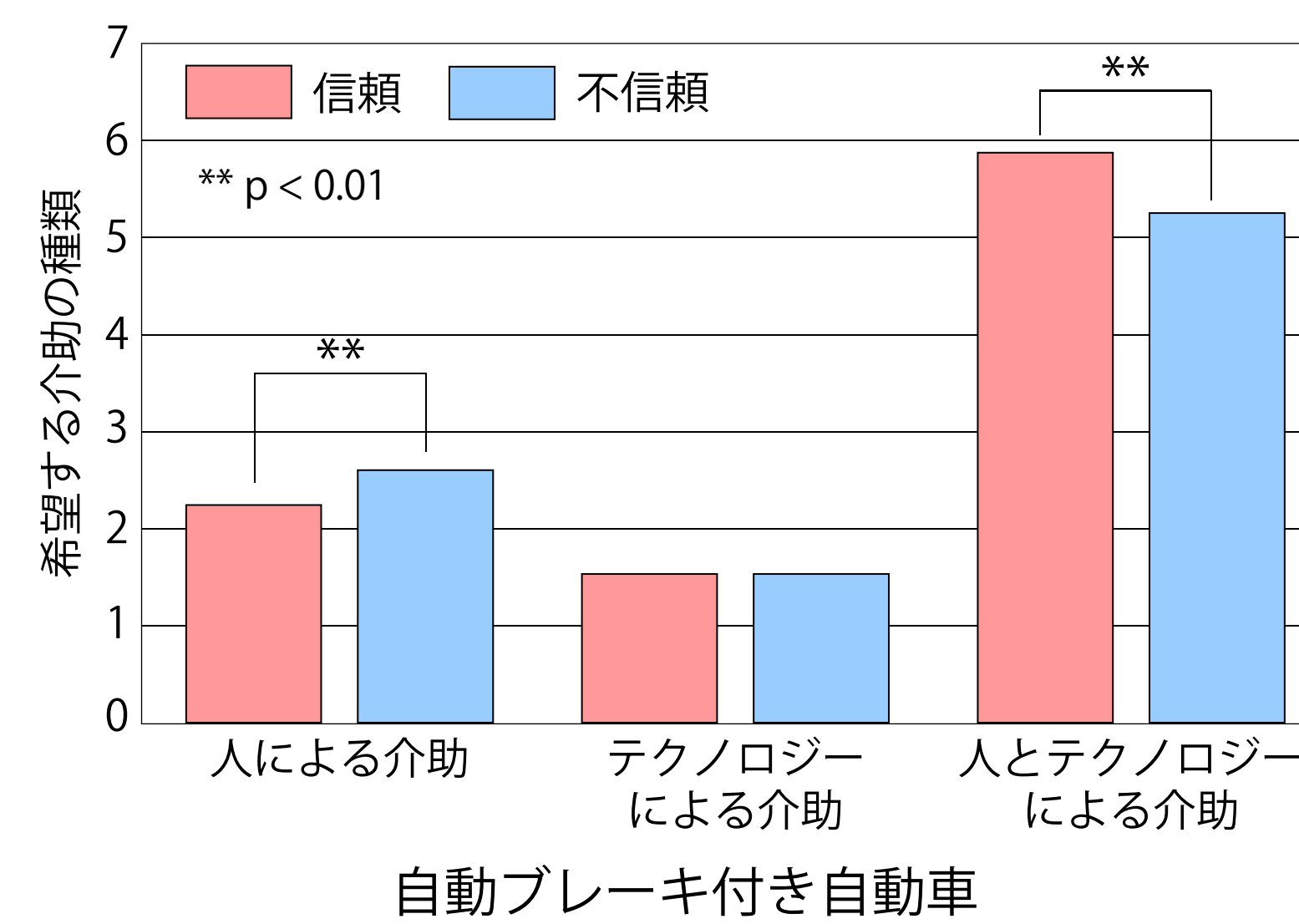
調査結果

■ テクノロジーに対する信頼と利用意向

- 人による介護: 年齢が高い, 世帯収入が低い, 学歴が低い方が多い
- 人とテクノロジーによる介護: 学歴が高い方が多い
- 経験あり: 年齢が低い, 世帯収入が高い, 学歴が高い方が多い



- 信頼が高い人: より多くの介助で「人とテクノロジーによる介助」を希望する



■ テクノロジー利用に対する意識と信頼の関係

- テクノロジーの利用促進には、生活でのテクノロジー体験の機会を増やすことが有効

